

## ●手探りで技術を確立

野尻町は自然豊かな緑と花の町である。その花の町のレジャーランドとして、一九九二(平成四)年にオープンしたのが「のじりこびあ」。

国道268号沿い、宮崎市から行くと、人造湖である野尻湖に架かる野尻大橋の手前。シンボルは名産のメロンをかたどったメロンドームで、ドーム内にはキュウリやトマトなど新鮮な野菜、手作りの農産物、誘致企業の製品、陶芸品などがそろう、特にその日に収穫されたばかりの野菜などは人気が高い。

遊具も豊富。スカイサイクル、スキッドレーシング、ローンスライダーなどのほか、ガラススキー場、パターゴルフ場もあり、大人から子供まで楽しめる。行楽シーズンは車の長い列ができる。また、城の形をした歴史民俗資料館では野尻町の歴史が一目で分かるほか、お年寄りの豊富な経験と技術を生かした竹細工、わら細

工を子供たちに伝承する場も提供している。

観光バラ園もあり、ガラス温室六棟に赤、黄、白など二十一種類、約三十五万株のバラが咲いている。年一百万円の会費で地域発送も実施している。リピーターも多い。

町民憩いの場が「野尻湖」。六七(昭和四十二年)、県の大淀川総合開発事業の一環である「岩瀬ダム」建設によってできた人造湖。毎年八月上旬には「野尻湖祭り」が開かれ、アトラクション、歌謡ショー、中学生ブラスバンド演奏などでにぎわう。

コイ、ヘラブナ、ブラックバスなどの宝庫で、一昨年までは九州地区釣り大会なども開かれていた。

野尻町はメロンの町でもある。先駆者が六七(同四十二年)年から栽培に乗り出した同町三ヶ野山の立山国宏さん(八)。たった一人から出発。



「のじりこびあ」。大人から子供まで楽しめる

当時、町内にはメロンの種もなく、手探りで栽培技術を確立していった。東京市場などで高い評価を得たのは「みつばち交配」を採用してから。「みつばちメロン」として七七(同五十二年)には評価も定着した。

立山さんは「厳しさの連続だったが、日本一になるんだという気概で取り組んだ。二年後にはSAPのメンバーと共同の育苗圃(ほ)を持ってプリンスメロンの栽培にかかった。努力したことが今につながっている」と語る。

現在、メロン栽培農家は八十三戸で、年間約十億円の出荷額を誇る。町内の国道268号沿いの街灯はメロンの形で統一、「メロンの町」を演出している。

首藤光幸